

事業紹介

～令和3年度いわき市少年補導員一日体験教室～

いわき市少年補導員一日体験教室は、小・中学生の保護者に、街頭補導業務を体験していただき、少年補導員の活動や青少年の行動実態を認識してもらうとともに、少年補導員として活動する新人の発掘及び育成を図ることを目的として、毎年11月に開催しています。

令和3年度は、常磐支部の保護者10名に参加いただき、本市の少年補導の概要や補導員の心得などを説明した後、補導車による街なかの巡回や青少年への声かけなどを体験していただきました。(令和4年度：勿来支部、令和5年度：小名浜支部(予定))



街頭補導を体験する参加者

フレッシュな
新任補導員から一言
内郷支部 補導員 坂本 由夏

少年補導員を始めて1年6か月になります。その間、新型コロナウイルスの影響で中止や時間短縮が続き、十分な補導とは言えない状況が続いています。そんな中でも、子どもたちが元気に下校していく姿を見られることを嬉しく思いました。今では、自分の散歩中にも見守りを心がけるようになっています。

状況が良くなり、先輩補導員の方々と補導活動をすることや、子どもたちに声をかけることを今から楽しみにしています。

街頭補導

～通学路防犯危険箇所パトロール～

少年補導では、犯罪や非行の未然防止や子どもたちの安全確保を目的として、不審者目撃箇所周辺及び通学路防犯危険箇所での「見える補導、見せる補導」により重点的に巡回しており、令和3年度は、不審者情報に関わる巡回は141回、通学路危険箇所の巡回は79回実施しました。

不審者情報の件数は、令和2年度の62件に対し、令和3年度は33件と減少し、今年度も減少の傾向にありますが、児童・生徒への声かけ・盗撮・暴行等の悪質な行為があるため、抑止力となるように、継続した巡回を行っています。



青色回転灯装備車両による巡回

街頭補導の状況

令和3年度は、1年を通して計998回の街頭補導活動を実施し、延べ1,131人の少年補導員が従事しました。うち、街頭補導活動における補導件数は0件で、指導件数は、「自転車の無灯火5件」、「自転車二人乗り8件」、「その他2件」の合計15件でした。令和2年度に比べ、自転車の運転に関する補導件数が増加しています。

補導日誌から

- 坂道を下ってきた2台の自転車(男子高校生2人)が、交差点の信号を無視し、入ってきたので注意した。
- 通学路の巡回中に、一人で下校する生徒がいたので、気をつけて帰るよう声かけをした。
- 列車内補導で、100人程の高校生がおり、ほとんどがスマホに見入っていたが、「こんにちは」と声をかけると、「こんにちは」と返事してくれた。
- 内郷駅前で、10人の男女高校生が座って話していたので声をかけたら、電車待ちと素直に返事をした。また、階段付近で寝そべっている高校生がいたので、注意した。

令和4年度「福島県青少年健全育成条例に基づく知事表彰」受賞者

[青少年育成者] 石川 四郎氏 (いわき市少年補導員小名浜支部副会長)

回覧

発行

いわき市教育委員会事務局
生涯学習課
いわき市少年補導員
連絡協議会

かけはし

連絡先

平少年センター TEL 22-5431
小名浜少年センター TEL 54-1890
勿来少年センター TEL 63-3467
常磐少年センター TEL 43-2305
内郷少年センター TEL 26-2974
四倉少年センター TEL 32-2920

第15回いわき市青少年育成大会

8月28日、文化センター大ホールにおいて2年ぶりに「第15回いわき市青少年育成大会」が開催され、少年補導員や青少年関係団体など約80人が参加しました。

コロナ禍で、大幅な規模の縮小など感染防止対策を講じつつ、青少年の地域活動を積極的に支援するため、2名の高校生ボランティアを受入れての運営となりました。

中学生による意見発表では、代表として、「第44回少年の主張福島県大会」出場候補者の2名が、日ごろ地域や学校で感じ体験したことをもとに、社会へのメッセージを力強く発表し、参加者は熱心に聞き入っていました。

記念講演は、医療創生大学教授の鎌田真理子先生に「県内の子どもたちの状況と支援」と題し、震

災以降の子どもたち、新型コロナ禍で影響を受ける子どもたち、身近に潜在するヤングケアラーについて、各種調査結果や自身の経験をもとに、その取り巻く環境や求められている支援について、ご説明くださいました。また、そうした子どもたちにとって、地域の大人が重要な存在であり、専門機関・団体と連携しながら支援していく

ことが必要であると強く呼びかけていました。

【意見発表者】

・北地区代表

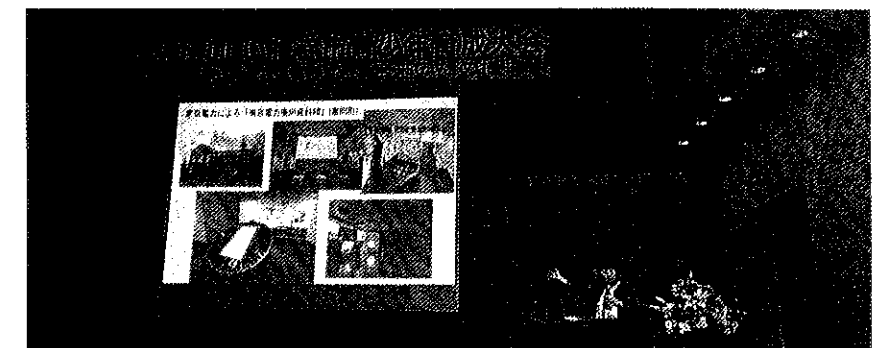
薄葉 好さん(平第一中)

「自分らしく生きられる社会を目指して」

・南地区代表

園部 華さん(川部中)

「明るい未来を創るために」



「記念講演」(鎌田真理子先生)

新型コロナ禍を経験して、
これからの私たちの役割

いわき市少年補導員連絡協議会 会長 伊藤 浩一

私たち少年補導員を取巻く環境は、東日本大震災、津波、原発事故と新型コロナ禍で今まで経験したことがないことが起きました。特に、3年前からの新型コロナウイルス感染症が終息せず、行動制限により生活様式が変化したため、私たちを取巻く環境も激変し、補導活動は中止となり、感染防止対策を取ったの青パト車による巡

回補導になりました。

総会、役員会も書面による開催、各種大会や講演会も中止となりました。しかし、今年の第15回いわき市青少年育成大会は、人数を大幅に制限して開催し、2人の中学生による意見発表と、医療創生大学教授の鎌田真理子先生による「県内の子どもたちの状況と支援」のテーマで講演が行われました。

講演は、ヤングケアラーの現状と支援や、震災やコロナ禍など未曾有の惨事が発生すると年寄りや子どもたちが影響を受けやすいため、地域の人たちの見守りや関係機関などへの報告と連携が重要との内容でした。コロナ禍の終息はまだわかりませんが、補導員として地域の一市民として次世代を担う子どもたちを守るためにも、関係機関・関係団体との連携を密に図りながら、これからも活動していきたいと思っています。

- 1つ 親も子も、早寝、早起きして規則正しい生活につとめます。
- 2つ 親も子も、進んであいさつするようにつとめます。
- 3つ 親も子も、何でも話しあえるようにつとめます。
- 4つ 親も子も、家事を分担し、役割を果たすようにつとめます。
- 5つ 親も子も、隣近所と仲良く、社会参加につとめます。

《家庭のちかい》

コロナ禍での補導活動

常磐方部

補導員 佐藤 久美

私は、少年補導員として活動に参加し5年が経ちました。けれどもこの約2年間は、コロナ禍で、月に1度の少年アドバイザーさんや、先輩補導員の方との巡回や交流も制限されることが日常となっていました。本来の補導活動も自粛が続き、乗車人数を減らした巡回が中心となり、年に数回の徒歩による人と接する声かけ活動ができないことはとても残念に思います。

外出の自粛制限などもあって、街中で子どもたちの声や姿もあまり見かけなくなりました。それでも不審者等の情報は絶えることはありません。子どもたちが犯罪に巻き込まれないよう、安全を見守り、また、コロナ禍での新たな補導活動に、微力ながら今後も、これまで以上に地域づくりに貢献できるよう活動を続けていきたいと思っています。



私の補導活動

～みんなであいさつ～

小名浜方部

補導員 小野寺 敏幸

みなさん「こん・にち・は」この言葉は誰にでも通して言えるあいさつです。ここ最近の補導では、青パトロール車による巡回補導が主となりスピーカーで「こんにちは」「気を付けて帰って下さい」などの声かけを行っています。その時の子どもたちはペコリと頭を下げてあいさつをしてくれます。私も日頃、ワンコの散歩で近所を回ります。補導活動ではなく日常のことですが、子どもたちから、「こんにちは！」と元気にあいさつをいただけます。

『地域の子どもは、地域で守り育てる』

(いわき市青少年育成市民会議：努力目標抜粋)

Report

街頭補導活動レポート

私は朗らかな気持ちで散歩をしています。補導活動方針には積極的に子どもたちに声をかけて大人たちはあなた方を見守っているんだよ！と伝える重要性をうたっています。これからも補導活動を頑張っていきます。みなさん共によろしく願いいたします。

さりげない「声かけ」をあなたも

平西方部

補導員 坂井 聡

補導の目的は、そもそも青少年を見守ることです。問題行動をしていないかという監視と思われがちですが、そうではありません。

今はコロナ禍で、なかなかできませんが、少し前の列車補導の一場面です。「こんにちは」「さようなら」の挨拶が、さりげなく高校生とわたしたち補導員との間で交わされました。「野球部で頑張っています。」と、アピールしてくる子もいました。また、ある夏の暑い日、汗まみれになり胸のボタンを外しながら駆け込んできた女子高校生がいました。「身だしなみには気をつけるのよ。」と一緒に補導員の方が声をかけました。さりげない良い声かけだなあと思いました。

ぜひ、みなさんも補導員として、広い心で子どもたちを見守ってみませんか。



分かりやすい声かけ

内郷方部

補導員 新妻 由美子

今年、いわきの夏のイベントは新型コロナウイルス感染防止対策をしながら、たくさん開催されました。

海開き・七夕・回轉櫓等子どもも大人も楽しんでいる姿を見ることができ、とても嬉しく思いました。マスクが無ければ、もっとたくさんの笑顔が見られたかもしれませんが、仕方ありません……。

マスクは口元を隠してしまうため、子どもたちがもし犯罪に巻き込まれ大きな声を出しても動きが無ければ、すぐにはどの子か？を特定するのが難しいのではないのでしょうか？実際、登校中の子どもたちから「おはようございます」という声が返ってきますが、大勢の中ではどの子の声かは、分かりません。声掛けでは「気を付けて」よりも「助けての時は手も上げてね！」と言ってあげることが大切なかもしれません。

いわき七夕まつりで 特別補導を実施しました

平東方部

補導員 根本 浩一

平東方部では、8月7日（日）いわき七夕まつりにおいて、特別補導を実施いたしました。例年は、8月20日に行われる夏井川流灯花火大会の時に特別補導を実施しておりましたが、本年は3年ぶりのいわき七夕まつりということで、多くの子どもたちがいわき駅前に集まるとの予想から、七夕まつりでの特別補導に変更しました。

街頭補導は15名を3グループに分け、午後5時から1時間、補導活動のPRもかねてウエットティッシュを配りながらいわき駅前周辺を巡回しました。久しぶりの七夕まつりに、子どもたちが楽しそうにしている姿と、声をかけると答えてくれる素直さが印象的でした。

コロナ禍で、いろいろ我慢してきた子どもたちが笑顔でいられる様に、これからも見守りを続けていきたいと思いました。

ラジオ体操と子どもたち

勿来方部

補導員 三戸 進

いわき南警察署少年警察ボランティア活動計画の

中で、8月22日に子どもたちとラジオ体操をして触れ合ってきました。勿来二小の校庭には、児童15名と保護者、教員や民間交番「関の子広場」、地元企業、いわき南地区少年警察ボランティア協会、いわき南警察署など、40人近く集まりました。挨拶、事業の説明が終わるといよいよ本番です。9時30分頃から体操第一が始まると子どもたちの小さな体が大きく動き、第二が始まるとさらに伸び伸びしていました。コロナ禍で、外で遊ぶことが少なかったため笑顔が溢れていました。体操が終わると、防犯寸劇を実施し、その後に声かけ被害防止などの説明があり、子どもたちの笑いの中でこの事業が無事終わりました。

補導員として、様々な面で、これからも子どもたちの笑顔を見守っていききたいと思います。

安全・安心な地域を願って

四倉・久之浜方部

副会長 瀬谷 友一郎

私が補導員になりたての約20年前には、夕方でも公園で元気に遊ぶ子どもたちの姿がよく見られました。しかし、ここ数年は、少子化、コロナ禍の影響もあるでしょうが、補導時間に子どもたちの姿は、ほとんど見られなくなってきました。「異常気象も続けば、もう異常ではないという」これから先、どうなってしまうのでしょうか。不安でしかない気がします。いろいろな制限の中、過ごさなければならぬ子どもも含む私たち。また元のように、自由に穏やかに過ごせる、そんな日々が戻ってくれる事を願っています。

「地域の子どもたちは、地域で見守り育てる」このようなご時世ですが、私たち大人が、少しでも安全・安心に過ごせるよう、力になれると思います。



『少年を犯罪や非行から守ろう』

(いわき市少年補導員：防犯パトロール・スローガン)